

米沢興讓館高校SSH通信

SSH台湾海外研修

平成31年3月5日から8日まで、SSH台湾海外研修が行われた。2年理数科34名が参加した模様をお伝えする。



国立中央大学を見学して二年一組 男子
台湾海外研修二日目、私たちは国立中央大学へ行きました。この大学は世界大学ランキングにも入ったことのある有名な大学で、特に宇宙工学や天文関係に関しては台湾でも有数の設備を持っています。広大なキャンパスを持ち、大学をまわるのも一苦労でした。キャンパスツアーでは、ポリマーを作る研究や結晶を丸くつくる研究など様々な研究を紹介してもらいました。どの研究もハイレベルで、様々な分野で研究が行われていて、また設備も整っていて素晴らしいです。



今回、中央大学を見学して、より世界に目を向ける必要があると思います。



今回の研修で自分の英語不足を痛感しました。高級中学の私のバディも述べていましたが、英語をマスターするには相当な練習量が必要だと思つたので、英会話の練習を頑張っていました。

国立台湾師範大学附属高級中学との交流
二年一組 女子
私たちは台湾研修で、国立台湾師範大学附属高級中学の高校生と交流しました。高級中学の生徒は元気に走り回ったりして、とても明るい印象でした。研究発表では、台湾の生徒の発表を聞き、研究内容の濃さ、圧倒的な英語力に驚かされました。興讓館生の発表に対する意見も的確で、深い話し合いが繰り広げられていました。一方、私は台湾の生徒の発表や話の内容結論を完全に理解出来なかったのが、悔しかったです。最後に台湾の生徒が感想を話してくれました。一つひとつの発表に関して、わかりやすい英語で丁寧な語ってくれて、素晴らしい内容でした。



来年度から本校はSDGs持続可能な開発目標を取り入れた研究を行います。そこで大切になるのは研究への熱意はもちろん、その研究が社会や人をどう助けていきたいかだと思つています。なので、これからの活動において自分たちのアイデアを活かせるよう視野を広げ、日々の学習に努めていきたいです。

の工台湾海外研修
工業技術研究院を訪れて
二年一組 男子
私たちは理数科は、台湾研修で工業技術研究院(工研院)を訪れました。そこでは様々な科学技術を応用し、製品化へと結びつける研究活動を行っていました。私がそこで最も注目した技術は、手を動かすときに筋肉の極めて小さい音を捉えて反応するセンサーについてです。これは、医療や福祉の現場でのリハビリテーションなどに役立つだけでなく、インターフェースとして利用するうちに私たちに新たな感覚が備わるのではないかと思います。また、工研院の職員の方々は、「入助け」ということを意識して研究活動を行っていました。この入助けたいという想いがあることによって、研究に対する思いも深まり、その成果が数多くの賞で評価されるのではないのでしょうか。

附中生との交流を経て二年一組 女子
短い研修期間の中で最も濃密な時間を過ごしたのが、国立台湾師範大学附属高級中学での授業体験と研究発表会だったように感じます。

午後は授業体験で、それぞれのバディと一緒に様々なことをしました。授業中の積極的な先生に質問する姿は興讓館の教室でもよく見かける光景で、住んでいる国が違っても授業に臨む姿勢は変わらないのだと思えました。

